



## 乳幼児(6か月～4歳)のコロナワクチン接種すべき？

厚生省や小児科学会などすべての学会は、健康な乳幼児には接種をするよう推奨しています。その理由は以下のようなものです。

- ①海外のデータからこの年齢におけるワクチンの安全性、有効性が確認されていること。発症予防効果は70～75%、重症化予防効果は発症予防効果をさらに上回る。接種後の発熱の頻度は5～7%と低く、副反応は全般的に軽度である。
- ②第6波、第7波の感染の中心は小児であり、今年の1月から8月の間に新型コロナの感染後に亡くなった41例の子どもの検討では、その半数が5歳未満であったこと。
- ③この年齢層はワクチン接種の対象でなかったため流行すると感染が広がる可能性が高いこと。

まず第一に、乳幼児をコロナの感染から守るために、子どもがいる家族や周りの大人がオミクロン対応型ワクチンを接種することを優先してほしいと思います。そして、保育所などの集団生活をしているお子さんについては、両親が共働きで仕事が休めない、同居している家族に高齢者や基礎疾患のある人がいるような場合に、ワクチンの接種を考慮するというのが実際的ではないかと考えます。

### おっぱいを休み休み飲むのは人間だけ！

先日の園医会の講師の山田先生のお話です。言われてみれば犬や猫の赤ちゃんの授乳は休まずに一気に飲んでいますが、人間の赤ちゃんはおっぱいを休み休み飲んでいきます。しかも2カ月を過ぎると、おっぱいとおっぱいの合間にお母さんと目を合わせて「ウクン、アクン」と微笑みながら語りあっています。

角も牙もない哺乳動物の授乳は母子にとって生命の危険を伴う行為です。安全性や栄養補給の面を考えれば一気に飲みが最善の方法といえます。しかし、人間だけは目があうことを喜びとし、生まれつき人と人とのかわりを最優先する生き物なのです。

この生身の人間のかかわりこそがその後の言葉の獲得やコミュニケーションに一番大切となってくるのです。

★★授乳中のスマホはやめましょう！！

### 11月の感染症情報

朝晩が寒くなったせいか、鼻かぜのお子さんが目立ちました。一部の保育園では、手足口病の流行がありました。RSV、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザなどの呼吸器感染症は下火になりました。

コロナとインフルエンザの同時流行が懸念されていますが、コロナのお子さんはやや増加したものの、インフルエンザの発生はありませんでした。



### 11月の利用状況

11月の利用延べ人数は86人で、1日の平均利用人数は4.5人でした。年齢別では1歳児が35人で最も多く、次いで2歳児の22人でした。疾患別では、急性上気道炎が46人で最も多く、次いでグループ性気管支炎、気管支喘息、手足口病などがありました。

現在、小児のコロナワクチン、インフルエンザワクチンが個別医療機関で実施されています。第8波の流行に備えて、可能な限り接種をすることをお勧めします。

ワールドカップの日本代表の活躍に勇気をもらっていますが、コロナも再び増えてきています。12月は忘年会のシーズンです。くれぐれも外食等外出時の感染対策にはお気をつけください。